
刀語 × Fate ~ 現代に集う英雄たち ~

フルフル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

刀語×Fate

↓現代に集う英雄たち↓

【Nコード】

N4219Z

【作者名】

フルフル

【あらすじ】

時を遡ること数百年前・・・第1次聖杯戦争・・・
その場に召喚されたサーヴァントたちは、なんの因果か「刀語」において時代に名を刻む英霊たちだった。

まだ戦国の世が終わって間もない時代、に激闘を演じた英雄たちが、
今一度現代に蘇り、聖杯をめぐる・・・

現代版時代活劇・・・フェイト・カタナガタリ

始まり始まり・・・

〈英霊召喚〉（前書き）

刀語とフェイトのクロスオーバー作品です。

召喚されるサーヴァントが全て刀語関係の人物という。

洒落にならない不自然さ。

正直両作品とも知っている方はそんなにいるとは思いませんが、
知っている方は、楽しんでください・・・

く英霊召喚く

そこには一人の人間が居た。

暗い、狭い、臭い。

床には謎の文様がある部屋だった。

そんな場所に彼女は一人で立っていた。

そしてその少女の目の前には、朽ちかけの誰かの白髪が置いてあった。

「閉じよ。閉じよ。閉じよ。閉じよ。閉じよ。」

その場にいた一人の少女は、何かを喋り始めた。

「繰り返すつどに五度。ただ、満たされる刻を破却する。」

「素に銀と鉄。礎に石と契約の大公。祖には我が大師シュバインオ
ーグ」

「振り立つ風には壁を。四方の門は閉じ、王冠より出で、王国に至
る三叉路は循環せよ」

「告げる………」

「汝の身は我が下に、我が命運は汝の剣に」

「聖杯の寄るべに従い、この意、この理に従うならば応えよ……」

「誓いを此処に、我は常世総ての善と成る者、我は常世総ての悪を敷く者」

「汝三代の言霊を纏う七天、抑止の輪より来たれ、天秤の守り手よ！」

床の文様が輝き、部屋全体が揺れる。

大気が震え、目の前が光り輝く。

そして少女の目の前に「何か」が現れた。

現れたそれはヒトではない。

ヒトであった、かも知れないが、今はヒトではない。

そんなものが少女の目の前に現れた。

「……あれだ、えつと……」

現れたそれは少女に向けて喋り始めた。

「あんたが俺のマスターか？」

〜英霊召喚〜（後書き）

結構ミスマッチなクロス作品ですが・・・

うまく行くように頑張ります。

く甦る虚刀流の男く（前書き）

続きものなので、少しづつキャラを増やそうと思います。

始まり始まりっ？

く甦る虚刀流の男く

「あんたが俺のマスターか？」

それはそう言った。

「ええ、私が貴方のマスターよ」

少女はそのの言うことに応えた。

「それで、貴方のクラスはなに？」

続けざまに少女はそれに質問をした。

「ああ、俺は多分、セイバーだと思うぜ」

表情を変えることなく、淡々とそれは応えた。

「わかったわ」

短くそれだけを言うと、少女は扉の前まで行き、部屋を出た。

「・・・・・・・・」

それは黙って立っていた。

「！」

何かに気づいたように、それは床の一部を見つめていた。

視線の先には朽ちかけの白髪が置いてあった。

ゆっくりと、それは視線の先に近づき、跪いた。

「久しぶり、とがめ」

それは表情を崩し、微笑んでいた。

「なんで貴方が私の名前を知ってるのよ？」

少女は扉の横で、跪くそれを見つめていた。

「ん……？あんだ、とがめって言うのか？」

「そうよ、咎める女と書いて、とがめと読む」

少女は言い終わると、その目の前に来た。

「真名は？」

「真名？……ああ、本当の名前か」

ぬっ、と立ち上がり。

それは静かに、若い声で言った。

「虚刀流七代目当主、鑢七花、だ」

言い終わったその口元に、少女は寂しさを感じた。

「予想通りの名乗りね、まあそのために聖遺物をコレにしたんだものね」

少女は床に置いてあった白髪を、ひょい、っと掴んだ。

「貴方に一番親しい人物の遺物・・・でしょ？」

「・・・まあな」

悲しげな視線で、それは白髪を見つめていた。

先程の微笑みは、今は消えている。

「ちょっと、辛気臭いわよ」

少女はケタケタ、と笑いながら言った。

「とにかく、これからはお互いパートナーなんだし、ヨロシクね」

「ああ」

それが、七花と、咎女の、出会い。

~~~~~

同時刻・・・

「俺は、眠いんだよ」

~~~~~

同時刻・・・

「拙者にときめいらつまはらひしけれ」

~~~~~

同時刻・・・

「不名乗、名乗る必要はない」

~~~~~

同時刻・・・

「うちっちは遊びに来たですよ！」

~~~~~

同時刻……

「早々で申し訳ありませんが、私は死にたいんです」

~~~~~

同時刻……

「ぼくは英雄じゃなくて、仙人なんだけどね」

~~~~~

時を同じくして、七体のサーヴァントが現代にその勇姿を表した。

しかし、その全員が、全員に面識のある人物だとは、誰も知らない。

少なくとも、今はまだ。



く甦る虚刀流の男く（後書き）

刀語を読んでいる方は、誰がでるか分かってしまったかもしれませ  
んね。

続きます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4219z/>

---

刀語 × Fate ~現代に集う英雄たち~

2011年12月14日19時48分発行